

センターが提供できる実習プログラムの例

当センターが提供する教育内容は、湖沼・河川の生物と環境に関する専門的な実習、教養的な実習、理科教育に関する実習などです。具体的なメニューとしては、次のような臨湖実習を、1泊2日～4泊5日でよく実施しています。

<臨湖実習> 首都圏の水がめである霞ヶ浦をフィールドに、基本的な水質・動植物の調査法を習得する。湖沼環境の特性、湖岸のコンクリート護岸化が生物群集に及ぼす影響、外来生物のインパクトなどを体感しながら、湖沼生態系の仕組みについて学ぶ。

- 環境調査：船上での水温、透明度、pH、光量子、溶存酸素量等の環境測定
- 生物調査：沖帯や沿岸部の水草帯など複数の定点で、プランクトンネット、採泥器、投網や地曳網等の採集道具を用いたプランクトン、底生動物および魚類の定量・定性採集
- 室内作業：クロロフィルa量や栄養塩類などの水質分析、および各種顕微鏡を用いた生物試料（植物・動物プランクトン、底生動物、付着生物、魚類など）の観察・標本作製・同定・計数・測定・解剖
- 実習成果発表会およびレポート作成

当センターが対応できる利用大学提案型の実習プログラムの例

上記の実習に限らず、さまざまな分野の実習に対応しています。いつでもご相談ください。実績に基づいた具体例は、以下のようなものです。

<陸水学概論> 日帰りまたは1～2泊で行う。調査船を利用し、北浦の沖帯で水質調査や生物採集を行う。それらの試料を実験室で分析し、湖沼生態系の仕組みを学ぶ。

<湖岸環境の保全> 日帰りまたは1～2泊で行う。北浦のヨシ帯で多種多様な生物をさまざまな方法で採集し、その分類と生態を学ぶ。湖岸開発が生物多様性に及ぼす影響についても検討する。

<外来種問題> 日帰りまたは1～2泊で行う。河川・湖沼でさまざまな外来生物を採集し、それらが引き起こしている問題、対策の現状を学ぶ。

<魚類学> 日帰りまたは1泊で行う。野外で魚類の採集方法を学ぶとともに、食材となる魚類を解剖し、魚類の形態とその機能について専門的に理解する。

<地質環境科学> 1～2泊で行う。センターの周辺でボーリングにより採取した地層サンプルを実験室で分析し、地域の台地の成り立ちを探る。

これらは、あくまでも一例です。利用大学の課程・目的にあわせ、これまで蓄積してきた内容から必要なものを組み合わせたオーダーメイド型の実習を構築します。必要に応じて当センター職員が船の運転及び各専門分野での補助を行うこともできます。はじめてご利用をお考えの場合は、お気軽にお問い合わせください。